



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年12月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

## ～ '08 9/14 神通研集会報告②～

### 「川崎市の取り組み・・・その後」

H18年から市の防災訓練の中で「聴覚障害者に対する災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」を行っています。訓練の中で聴こえないという障害は難聴も中途失聴もろう者もみんな同じと思われている聴覚障害者に対する一般社会の理解不足が浮き彫りになりました。訓練を重ねていくことで理解が広がっていけばよいと思います。

また、'07年の12月から「災害時要援護者避難支援制度」が始まりました。これは災害時に一人では避難することが困難な人たちが登録し、地域の支援組織が災害が起きた時に安否の確認をするというものです。対象者にこの制度についての情報が届いていなかったり、登録しようとしたろう者の方が「自力で歩いて避難できる人は対象外」と言われたという行政側の認識不足もあり、浸透するまでにはもう少し時間が掛かるようです。

## ～ 定例会11/30(日) ～

'08年最後の定例会を開催しました。神通研学習会、関東通研集会への参加者から報告があり、情報盛りだくさんでした。

新年早々の1/12(月・祝)には、「サークル研究班」企画の学習会を予定しています。「災害」への取り組みの一環として、今回は『手話でいこう』の著者、秋山なみさんをお迎えし、聴こえない立場で感じた「阪神・淡路大震災」のお話をお聞きし、地域で出来ること、サークルで出来ることについて考えてみたいと思います。

【次回定例会】  
1/17(土) 10:00～12:00  
かながわ県民センター ボランティアコーナー

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

2008年を振り返ってみると・・・  
仲間と一緒にいった中華街の帰り道、杏仁豆腐のテイクアウトを片手に手話したら・・・歩道の段差に気付かず転倒!!!  
大好きな杏仁豆腐を手離さず大事、大事に歩道に置いてから勢いよく転んだもんだから、一緒にいた仲間には指をさされ大爆笑。普通、ほっほりだすだろ～～～ってか^^;  
仲間と一緒にいった水上温泉の帰り道、立ち寄ったそば屋で隣にいたおじさん集団の忘れもの帽子、「ほらほら、忘れてますよ～」なんて世話をやいていたら・・・自分の携帯がないことに気がついた!!!  
どこを探してもない! 動揺している私の代わりに乗ってきたバス会社に電話連絡してくれた仲間。ありました～バスの中の落し物として宅急便で送ってもらうことで解決。  
普通、気づくだろ～～～ってか^^;  
痛かったり、凹んだりしたけど・・・  
よし! この出来事を持ちネタとして手話したら、それはおもしろいかも～～;  
新しい年・・・持ちネタが増えないよう、ドジには気をつけなきゃね。  
(M☆K)